

博物館だより



No.181

令和3年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都市みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

休館日 ※情報はR3.11.19現在

◆博物館NEWS

博物館秋季企画展

「みやこの猫ものがたり展」

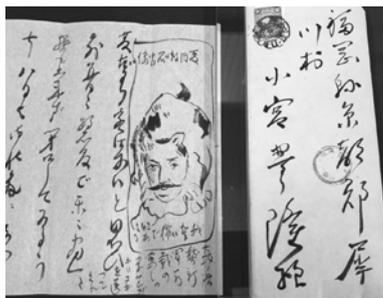
当館では現在、「みやこの猫ものがたり展」を開催しています。
(12月19日まで)

みやこ町は「日本最古の猫の記録」ゆかりの町で、これに関連する史跡が所在しています。また博物館には、夏目漱石の代表作「吾輩は猫である」に関連する資料が収蔵されています。これらの資料は、いずれも「猫の日本史」を研究する上で欠くことのできない貴重な資料に位置付けられています。これらの重要な「猫遺産」を町内外の人々に周知頂くことを目的として現在、企画展を開催しています。期間中は、みやこ観光まちづくり協会が行った「わたしのねこじまんフォトコンテスト」で国内外から応募があった全作品(381点)を博物館ロビーで展示しています。

大人から子どもまで「猫」を通して町の歴史を楽しく学ぶことができますので、お誘い合わせの上是非ご来館ください。
■観覧料
関連事業とも常設展の観覧料でご覧いただけます。
(入館は16時30分まで)



「みやこの猫ものがたり展」
マスコットキャラクター
「かしわでくん」



▲夏目漱石直筆「猫のイラスト」が描かれた貴重な手紙。宛先の「犀川村」に注目!



▲「日本最古の猫の記録」に登場する奈良時代の役人に関する資料。



▲館内を埋め尽くすように貼られた381枚の「猫、ネコ、ねこ。」1日中でも見られる空間です。



▲博物館職員も「ネコ」に扮してお出迎え。ご来館お待ちしております。

◆講座・教室 催し物ガイド

12月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
12月4日(土) 9時30分～

【古文書講座】
12月11日(土) 10時～

【古典かな講座】
12月18日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】
12月19日(日) 10時～

※日程等変更となる場合があります。

※見学会等は別途通知します。

博物館で「学習」始めませんか?

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館へお問合せ下さい!

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア養成講座

町の宝をガイド&ガードするスタッフを募集・養成する講座です。今からでも大丈夫!

年末休館のお知らせ

博物館では館内整理と燻蒸作業のため左記の期間休館致します。この間の博物館や文化財業務に関することは左記へお問合せ下さい。なお、新年は1月4日(火)から開館致します。

休館の期間
12月24日(金)～1月3日(月)

(29日以降は通常の年末年始休館)

休館中の問合せ先
☎ 33-33115 (豊津公民館)

10月・11月の業務日誌から

10月21日(木)「太宰府まほろば歴史の会」20名の皆様が町内にみられる奈良時代の史跡を見学しました。新型コロナウイルス感染拡大の為、約2年越しに実現した見学会で、国府・国分寺などの史跡は、「令和」のふるさとである太宰府市から訪れた皆さんも驚きの様子でした。

11月12日(金)豊津小学校6年生の児童36名が町内の史跡巡りを行いました。育徳館中学校・高校内にある福岡県指定文化財「思永館」の見学では、藤田校長先生より今年で263年を迎える学校の歴史についてお話をしていただきました。



▲「豊前国府跡」にて。「令和」の歌を詠んだ大伴旅人もこの地に立ち寄ったかも?



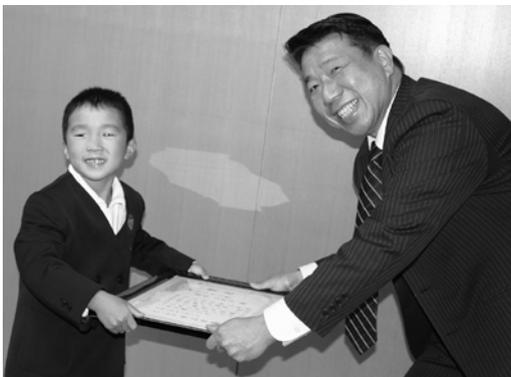
▲「思永館」内部にて。校長先生による貴重なお話を聞くことができ、地域の歴史の重みを感じた一日となりました。

「わたしの町の過去・現在・未来 絵画コンクール」
 「小学生歴史たんけん作文コンクール」

受賞者決定!



作文コンクール「最優秀賞」受賞者
 石灘陽大さん(みやこ町立 黒田小学校6年生)



絵画コンクール「グランプリ賞」受賞者
 清水太玖斗さん(行橋市立 行橋小学校1年生)
 ※高木博物館長から賞状の贈呈を受ける清水さん



絵画コンクール「グランプリ賞」受賞作品「ジンベエザメのバスにのってでかけよう!」

おめでとうございます!

例年、町内外の小・中学生の児童・生徒を対象に実施している「わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール」で、1、126点の応募作品の中から、行橋小学校1年生の清水太玖斗さんが描いた「ジンベエザメのバスにのってでかけよう!」が見事、グランプリ賞に輝きました。優秀賞6点を約1ヶ月間、博物館ロビーに展示し、入館者による投票を行った結果によるものです。中学3年生まで含めた作品が揃う中で、最年少の鮮やかな色彩が見事に表現された作品が目を引いた結果となりました。

また「小学生歴史たんけん作文コンクール」では、力作揃いの作文の中、黒田小学校6年生の石灘陽大さんの「みやこ町勝山のにわとり楽」が見事、最優秀賞に輝きました。

作文コンクール「最優秀賞」受賞作品
 「みやこ町勝山のにわとり楽」

黒田小学校 六年 石灘 陽大

僕たちの生活は、新型コロナウイルス感染症によって、大きく変わってしまった。僕の住んでいる黒田地区でも、昨年今度も神幸祭は行われず、黒田地区に伝わるにわとり楽をおどったのは、二年前で、僕にとってはそれが最後のにわとり楽になった。これから勝山黒田に伝わるにわとり楽の話について書こうと思う。

にわとり楽は別名黒田楽とも言う。その名前のとおり、にわたりの羽の被り物をかぶった地元の男児が参加できる楽である。楽衆には、化粧をほどこし、振袖を着せるなど、稚児の装いがほどこされる。さらにくわしく言うと、大きく四つのパートがあり、僕たちは、その四つを、かね、太鼓、つえ、との様と呼んでいた。かねのパートは、一番小さい子供達から成る。きれいに化粧をして、おかつば頭のようなつらをかぶるので、まるで女の子のように見える。実際に僕は、自分がにわとり

楽に参加するまでは、神幸祭を遠目に見ていて、女の子がおどっていると思っていた。太鼓パートは、中学年の男子たちが、頭の上に、にわたりのかざりをつけ、太鼓の長に続いて、たたいていく。つえのパートは、高学年の男子たちで行っていく。おどりはないがメートル五十センチメートルくらいのつえをもち、打ちつけあったり、つえを交じあわせたり、難しい演舞をひろうする。との様の役目は一人しか

選ばれない。との様は長い楽由来言上を覚え、輪の中心で大きな声でひろうする。大人の横ぶえや、指揮にあわせ、かねや太鼓をならし、全員で一通りおどっていると、すぐくごうかでかれないにわとり楽になる。

にわとり楽をほうのうする場所にも順番がある。まず、黒田神社、次に貴船神社、黒田神事場、最後に庄屋塚古墳へと回る。この時、衣装がとても重く、とてもつらかった思い出がある。にわとり楽の始まりは、昔、この近くにあった村で、疫病が流行しだしたときににわとり楽というものを作り、毎年四月に黒田神社に奉納したことだといわれている。

僕たちの学校である黒田小学校の体育館の壁には、にわとり楽が描かれている絵がある。この絵には、平成初期に書かれたと記されている。僕は、この絵を見て、にわとり楽は、ずっとずっと前から、地元の人や、地域の人達に大切に守られてきたんだと感じた。そして、僕は、この昔から受けつがれてきたにわとり楽を、下の世代に受けつぐ大切な部分の役割を、持っていたことに気づいた。そう思うと、五年生、六年生と神幸祭が中止になり、太鼓やつえがでなかつたことが、とても残念でならない。僕は、はやく、世界が落ちついてほしいと思った。そして、完全には、もとの生活に、もどることができないかもしれないが、伝統を受けついでいける世の中に、なつてほしいと思う。また、にわとり楽が再開したら、いままでおどってきた仲間と共に、「ピーカンカンピーカンカン」とかねや太鼓がなりひびく神幸祭に行きたいと思う。